授業づくり研修講座　実践レポート

　座間小学校　　　氏名　　中山　郁子

テーマ　　「日記指導を通して、論理的表現力を育てる」

|  |
| --- |
| 実践内容1. 理科「流れる水のはたらき」の授業

「流れる水にはどんなはたらきがあるでしょうか？」予想をした後、実験をする。（砂場に川をつくり、水を流す。）1. その日の日記の題を「流れる水のはたらき」にする。

（「今日の実験で分かったことを書くんだよ」と知らせる。）1. 理科「流れる水のはたらき」の授業の続き

流れる水には、「浸食、運搬、堆積」の働きがあることを知り、ビデオを見る。何人かの日記を読んで紹介する。（Aさんの日記）　今日、川の実験をして分かったことが３つあります。１つ目は、水が流れた後に砂がたくさん積もっていました。二つ目は、外側は水の流れが速くて、どんどんけずられていました。そのはたらきによっておこる災害を防ぐにはどうしたらいいかということも考えました。上流の方にはダムを作り、外側のけずられるところには、ブロックを置いたらいいと思います。三つめは・・・・1. もう一度「流れる水のはたらき」の題で日記を書いてくることを知らせる。
2. 上達した子どもの日記をいくつか紹介する。

（Bさんの１回目の日記）　私、今日すごく久しぶりに砂で遊びました。何年ぶり？５年ぶりだ。でも、やっぱり夢中になって、もう自分の世界に入って楽しかったし、昔はてきとうにやっていたけど、今は「ああすればいい」「こうすればいい」とたくさん考えて、すごくいいのができました。・・・（Bさんの２回目の日記）　今日、分かったことが４つあります。①水の量で水の流れる速さがちがうということ。②内側より外側の方がけずられるということ。③外側の方が流れのスピードが速いということ。そして４個目は、分かったというかびっくりしたことです、それは、水の力でリンゴや鉛筆などいろいろ切れてしまうことです。・・・・ |

実践のポイント（工夫）

1. 日記を毎日書かせる。

毎日の宿題で日記を出している。ただ、その日の出来事だけを書いているのでは「○○ちゃんと○○をして遊びました。楽しかったです。」というような文章の繰り返しになってしまう。そこで、授業で学んだことや最近のニュースなどから自分が思ったことを書くように日記の題を指定して書かせるようにした。（例、「タグラグビーのふりかえり」「TPPについて」「家庭科の授業で学んだこと」「こんなロボットがあったらいいな」「中学生になったら制服と私服どちらがいいか」など）

（２）友だちの日記から学ばせる。

４月から毎日取り組んでいる日記のおかげで、「書くこと」には大夫慣れてきた。しかし、事実だけをただ羅列したり、テーマ（題）と内容がずれていたり、論理的な表現にはまだまだ届かない子も多い。そこで「毎日書く」「たくさん書く」だけでなく、「筋道立てて分かりやすく書く」という指導に力を入れたいと考えた。

「高学年になると友だちから学べるようになる」というアドバイスをある先生からいただいたので、上手に書けるようになってきた子の日記を読んで聞かせたり、教室に掲示したり、学級だよりで紹介したりしてきた。友だちの日記を読んで、「どんなふうに書けばよいのか」「自分に足りないのは何なのか」に気づいた子は、少しずつ書く力が上達してきていると感じる。

1. 同じ内容でもう一度書かせる。

友だちの日記を読んでも「へえすごいな」と感心して終わってしまうことも多い。そこで、今回の実践では同じ内容をもう一度書かせるようにした。友だち（Aさん）の日記を読んで「こうやって１つ目は・・・２つ目は・・・と項目だてすると分かりやすいね。」「実験のあとは、結果を出して必ず考察をします。自分の考えもみんなは書けましたか？」などと、課題点を指摘し「みんなも、もう一度書けば○○さんみたいに書けるんじゃない？」と声掛けをした。高学年になると、クラスメイトをライバルとして見ている子も多い。「自分だってもっと書けるはず」と、友だちの日記と自分の理科のノートを見直して書いた２度目の日記には、多少のレベルアップが見られた。（Bさんなど）

ただ、それでもあまり変化のない子にはどのような指導が有効なのか課題が残る。

1. 日記で評価をする。

　　　授業で学んだことを日記に書かせると、「その子がその授業をどう理解したか」がよく分かる。日記を評価に役立て、次の授業を組み立てる参考にした。そのためには「この授業で何を学ばせたいか」「日記にどんなことを書いてきたら授業を理解していると評価するか」といった基準をあらかじめ設定する必要があり、教材研究も日記を意識してするようになった。